

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172300154		
法人名	有限会社 老古美興産		
事業所名	グループホーム「そよかぜ」岩内		
所在地	岩内郡岩内町字栄2番地10		
自己評価作成日	平成 29 年7月18日	評価結果市町村受理日	平成 29 年11月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail/2017_022_kani=true&Jig_yosyoCd=0172300154-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35 コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成29年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では岩内につしかないグループホームです。建物は二階建てで、居住スペースは二階ですが階段には昇降機を設置し、歩行困難な利用者様にも病院受診や買い物・外出を安心して行える様配慮しています。二階のホールからは、行き交う人の往来や商店街の街並みを一望することが出来ます。また夏祭りの行列や花火、町内会の行事を楽しんだり、季節の移り変わりを感じて頂けます。買い物や散歩に出掛けやすく地域の方々ともふれ合う機会も多々あります。1ユニットなので利用者様、ご家族様との距離も近く関係を大切にしており、その人らしいケアを心掛けています。家族交流会も恒例年2回行っており、食事会やゲームを企画し、利用者様、職員と楽しい時間を共有しています。またご家族様同士の会話も多く気軽に会話ができる空間づくりに努めています。ご家族様へ毎月発行している「そよかぜ便り」では利用者様個々の日常の様子を入れ、遠方のご家族様にも把握して頂ける様にしています。食事内容も家庭的な物を出来るだけ手作りしており、季節感や温かさ、地場の物を使用する様心掛けています。利用者様の希望を受け外食を楽しめる時間も作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道229号線沿いにあり、岩内町の中心部、銀座通り商店街に位置し、近くには木田金次郎美術館、岩内港、文化センター等があり環境に恵まれている。木造2階建ての2階に1ユニットの生活空間があり、車椅子利用者や足腰が弱い利用者の為に電動昇降機が設置されている。利用者の高齢化や介護度も上がってきているが、職員、利用者、家族は家族会を通じて良好な関係を築き、利用者は家庭的で穏やかな生活を過ごしている。利用者は町内の清掃行事、町主催のイベント「カカシ祭り」や「ものづくり市」に参加し、利用者の作品が2年連続受賞したり、敬老会などの行事に参加して交流し、近くの幼稚園児が来訪し歌や遊技を披露するなど地域との交流が盛んである。居間・食堂は一体的で、広い窓からは明るい日差しが入り、利用者はテレビを見たり、会話をしたり、コーヒー・お茶を飲んだりして思い思いに過ごしており、管理者を中心に、全職員が利用者の日常生活がマンネリ化することなく、変化と潤いがあるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた町、住み慣れた地域という内容を理念にいれ、地域密着を実践に繋げている。	運営規程とパンフレットには法人理念を明記し、事業所理念「住み慣れた町、住み慣れた地域、高齢であっても安らぎと喜びのある日々を、その人らしく過ごしていただきたい。」を玄関と事務所に掲示している。管理者は理念の実践について職員会議の中で取り上げ、職員との意見交換を行い共有してケアに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	馴染みの店にカラオケを歌いに行ったり、イベントがあれば参加して買い物もしている。	町内会に入会しており、地域の祭りや敬老会の参加、新年会への出席、町内の清掃行事等に参加し、地域の一員として交流している。また、小学校の運動会の見学や幼稚園児、ボランティアが来訪したりして相互に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少数ではあるが地域の人たちの理解があり、こちらの支援方法を参考にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の困難事例を伝え、アドバイスを頂き、町村や包括センターからも協力して頂く体制が出来ている。	地域包括支援センター職員、利用者家族、町内会役員、地域住民が参加して年6回開催している。事業報告、行事予定、地域包括支援センターからの発表、家族会からの予定や、意見、要望、避難訓練の報告などを受けサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村から協力、助言を頂き日頃のケアに活かしている。	町担当者とは福祉に関する書類申請、継続手続きなどで訪問し、相談したり助言、情報を得ている。地域包括支援センター主催の研修会に参加し、担当者が来所の際には、事業所のサービス状況や現況を説明し、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為夜間は施錠しているが、身体拘束となるようなケアを行わず、どうしても身体拘束が必要な利用者様にはご家族に説明し了解を得ている。職員間で学ぶ機会も作っている。	外部研修会等に参加し、研修結果を職員会議で報告して問題点を共有し、身体拘束をしないケアに努めている。スピーチロックは全職員で注意をしている。拘束に関し書面で明示し、緊急やむを得ない場合は家族に説明し同意を得ている。防犯上夜間は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に出席できておらず、次回の研修会には参加できるように努めたい。また職員間で常に話し合いの場を作っていく。		

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要性のある利用者さんはいないが、研修等があれば参加し学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	看取りの契約を家族と取り交わしている。内容の説明も納得を得ている。疑問等にも都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の家族代表も交代制にしており、家族会でも意見を言いやすい雰囲気作りをしている。	利用者との日常の会話や、家族の来所時の会話から意見要望を聞き取るように努めており、それを職員会議で話し合い運営に反映している。また、特に年3回ほど家族会からの提案があり出来るだけ要望に沿うよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が立ち寄る機会が増え何かあればすぐに相談できる環境にある。職員会議や勤務時に意見や提案が日常的に話し合われている。	管理者は、各職員と日常業務や支援方法に関する率直な提案や気づきを日常的に話し合っている。代表者が事業所を訪れ利用者の声、職員の意見を聞く機会が増え、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望を聞いてくれ働きやすい環境を作ってくれている。重要な話し合いの場にも参加、助言をしてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ参加する様声掛けしてくれ、参加後は必要なものは会議で報告し全員で勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワークづくりの研修に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の利用者さんはここ4年入っていない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の利用者さんはここ4年入っていない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の利用者さんはここ4年入っていない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を見極めて、本人の意思を尊重しながら一緒に生活し、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見を聞き外出したり、面会時は食事介助をしてくれたり、本人の好きな物を持ってきてくれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのカラオケ店へ月1回出掛けたり、カットやヘアカラーのため、通っていた美容室へ一緒に行っている。	職員は利用者と同行して馴染みの店での買い物等に行っているほか、利用者家族等の協力を得て外食、馴染みの美容室に行くなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士、日常生活の些細な事でいつも助け合っている。そういう関係を見守っている。		

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出時にご家族に会う機会もあり挨拶や近況を教えて頂いている関係が続いている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動、言動、表情から思いや希望を把握する様に努めている。	職員は、利用者の生活歴や日々のケアの中でコミュニケーションから、利用者の思いや希望、意向を把握するように努めている。また、意向等を上手く伝えられない利用者に対しては、家族からの情報や普段からの様子や状態を注意深く観察し、汲み取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族や本人から情報を頂いている。センター方式の様式を使用。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看取りに向かった生活をしている方がほとんどなので心身の状態は日々確認しており、出来る事を見極め一緒に行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を尊重しながら毎月担当者会議と全体会議を開き、評価・見直しを計画作成している。	利用者の思いや状況、家族の意向を反映させ、見直しは3ヵ月毎に(状態が安定している時は4ヶ月毎に)ケア会議で話し合っって介護計画を作成し、家族に説明の上確認印を得ている。状況に変化があればその都度、見直すこととしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護記録もいれており日々内容の確認が出来チェックもしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢化・重度化している為、その状態に合わせて対応している。必要時は町外の病院同行も行う。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園で遊具体験をして大笑いしたり、毎年芝桜を見学に行き五感で楽しんでいる。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼかかりつけ医の往診に対応している。必要時はかかりつけ医の指示で大きな病院の受診をしている。必要時は歯科医の受診もある。	利用者、家族の意向に添ったかかりつけ医に受診しており、希望により職員が付き添い利用者の状況を医師に説明している。内科医、歯科医は週2回の往診をしている。薬については薬局が来所して、薬の内容等の相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな事でも指示を仰ぎ受診の判断や日々の処置のあり方を教わっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は看護職員と連絡を密にし、病院関係者と相談、情報交換を行っている。面会も頻繁にし関係作りを努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師から話があれば、すぐに家族と話し合い説明している。スタッフ間でも看取りについての勉強会を開いている。	重度化や終末期のあり方について「看取りに関する要綱」に基づき契約時に説明し家族の承認を得ている。現在まで4名の看取りを行った。職員は、緊急時や終末期のケアなど研修会や勉強会を通して学び支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は2年に1度全員で受けている。急変や事故発生時等も看護職員へ連絡し実践となる対応が出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方と協力して年2回の消防訓練は日中、夜間を想定して必ず行っている。原子力防災訓練にも参加している。	避難誘導を担ってくれる近隣の地域住民や業者など参加して年2回(夜間想定・日中想定)の避難訓練を実施している。また、町の原子力防災訓練にも参加している。水、食料品など3日分以上備蓄している。	自然災害時の対応マニュアル及び連絡網を完備し、避難場所及びルートの確認を行いながら緊急時の対応を期待する。利用者のより安全の確保に努めるため「社会福祉施設等における非常災害対策計画の策定の手引」平成29年8月、北海道保健福祉部作成を参考に計画等の策定や見直しを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の能力や性格に合わせ、言葉を選び対応している。	言葉掛けは、利用者の生活歴や個性を尊重して関わっており、同じ目線に立ちプライドを損ねないケアを心がけている。個人情報の取り扱い、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思表示が明確であり、日々自己決定している。話せない方も本人の意思をくみ取れるよう言葉かけを多くしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、入浴、散歩、食事時間、就寝時間等、出来る限り本人の気持ちやペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	シャンプーやヘアカラー等本人に合ったものを使用している。また、好みに合わせ洋服や靴下等を用意している。		

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人ができる事を見極め、準備や片付けと一緒にやっている。以前からの好みの物や食べたい物を聞きながらメニュー作りをしている。	食材は旬のものを近隣の商店より購入し、季節感を出すように努めている。行事食のほか外出困難な利用者に配慮して出前を頼み食事の楽しみを支援している。誕生日には、「誕生祝ケーキ」や本人希望の料理を作り提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が困難になった利用者さんにはお茶ゼリーを用意したり、その時飲める量を摂取して頂き回数を増やしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を見極めている。毎晩入れ歯洗浄剤を使用し口臭の強い方には舌磨き、唾液腺マッサージを行っている。口腔ケアウエットテッシュ等も使用。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排尿パターンを見極め、時間を決めてトイレ誘導している。拒否のある利用者さんには声掛けの工夫をしている。	排泄状況を把握し、時間間隔や様子観察などそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導でトイレ排泄を支援している。利用者9人中4名が自立排泄を行っているが、日中は布パンツで夜間はリハビリパンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品を摂って頂いている。1日の水分量にも気を付け、ラジオ体操やゆらゆら運動と一緒にやっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが個々の体調に合わせて入浴日以外も支援している。	入浴は週2回を目安に、利用者の状態に合わせて清潔保持に配慮している。入浴を嫌う利用者には声かけなどに工夫し、清潔保持のため最低でも週1回入浴を支援している。入浴剤を使用して心身ともにリラックスできるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者によって異なり、その人に合わせている。日中の傾眠時も居室やソファで寝て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の介護記録にも載せており、全員で見られる様共有している。また薬についての勉強会も行っていく予定。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に合った役割があり毎日実践している。馴染みの店へカラオケに行ったり、その時期に合ったドライブや散歩も個々に出掛けている。		

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出を楽しんでいる利用者さんもいれば、外出好きな利用者さんにはスタッフが外出介助を支援している。	天気の良い日には職員と利用者で事業所周围を散歩したり、花見や紅葉見学、近くのニセコマでドライブに出かけるなど、利用者の気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かっており欲しい物を本人、家族と相談しながら購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らが電話をする事は無くなったが、訴え時や家族から電話があった時は会話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の為、混乱を招くような大声を上げたり、眩しさを感じてカーテンを閉める利用者さんも居るが時間をずらして食事して頂いたりしている。季節を感じて頂く為、壁にその季節の装飾をしている。	ホールと食堂は一体で、壁には行事の写真や利用者が作った切り絵、刺繍が飾られ、季節を感じさせる飾り付けがされている。また、大きな窓からは十分な採光を取り入れている。利用者は家庭的な雰囲気の中で、お茶やコーヒーを飲んだり、テレビを見たりして思い思いにゆったりと居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの椅子やテーブルで仲の良い利用者さん同士、会話を楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	初めから使い慣れたものを持参してもらい、移動したり家族と片づけたりしている。	クローゼットと暖房の温水パネルが設置された居室には、使い慣れた家具や仏壇、思い出の写真等が飾られて居心地よい生活環境が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に湯船に入れるよう、浴室に新しく手すりを取り付け使用して頂いている。浴室やトイレ等も大きく表示している。		